

大根「秀太郎」の産地導入事例

三浦市農業協同組合 三崎支店

支店長 竹本朝美

はじめに

神奈川県三浦市を知っていますか？ 日本地図で見ると、東京都の南、房総半島の西に東京湾を挟んでわずかに見える半島が三浦半島です。その大半は横須賀市で、小さな半島の先端が三浦市です。関東地方の人なら観光地として知名度はあると思いますが、大半の人は東京、横浜、さらに横須賀、鎌倉は知っていても、三浦市を知る人はわずかだと思います。そこに約1,000 haの農地が広がり、約1,000戸の農家が積極的に農業に取り組み、その約50%が専業農家であることは関係者以外にはほとんど知られていません。しかし、その内容は、こんなに都会（大消費地）に近い場所にありながら、一般に都市近郊型といわれる農業ではなく、自然の恵みを最大限に生かしたダイコン・

キャベツ・スイカ等大型重量野菜の露地栽培を中心としたものになっています（表1）。

1 三浦のダイコン

三浦の農作物は「三浦ダイコン」！と挙げる人が今でも多くいます。三浦市は温暖な気候を利用して、冬季でも露地栽培を行なっている古くからのダイコンの産地です。以前は「三浦スイカ」と答える人もいましたが、スイカ栽培は、現在でも400 ha以上あるものの、様々な原因で残念ながら以前ほど有名ではなくなってしまいました。

さて、「三浦ダイコン」を知っていますか？ 葉は開張型で寒さに強く、抽根部は白首で細く、地下部は尻太の吸い込み型で、しかも2 kg以上の大きさになるとおいしくなるタイプの大型ダイコンです。収穫時に雑に扱おうと折れやすく、重いので慎重に作業をしなければなりません（写真1）。

この三浦ダイコンも、昭和54年に試作した青首ダイコンが市場で品質が良いと評判になり、それまで関東の白首、関西の青首といわれていたダイコンの常識が変わっていききっかけになりました。このころを境に、関東でも青首ダイコンの扱ひ量

表1 三浦市の農業

(1) 経営耕地面積の移り変わり (単位: ha)

年	区分	水田	畑	樹園地	計
昭和40年		260.00	855.00	25.00	1,140.00
45		240.87	798.62	26.72	1,066.21
50		163.68	797.30	25.02	986.00
55		117.59	847.57	18.70	983.86
60		83.63	916.21	16.40	1,016.24
平成2年		64.47	960.20	11.24	1,035.91
7		36.82	975.88	10.93	1,023.63

(農業センサス)

(2) 農家の専業・兼業の移り変わり

年	区分	総農家戸数 (戸)	専業 (戸)	構成比 (%)	第1種兼業 (戸)	構成比 (%)	第2種兼業 (戸)	構成比 (%)
昭和40年		1,592	663	41.6	423	26.6	506	31.8
45		1,427	571	40.0	449	31.5	407	28.5
50		1,226	510	41.6	422	34.4	294	24.0
55		1,117	574	51.4	347	31.1	196	17.5
60		1,103	564	51.1	304	27.6	235	21.3
平成2年		1,023	529	51.7	307	30.0	187	18.3
7		983	511	52.0	298	30.3	174	17.7

(農業センサス)

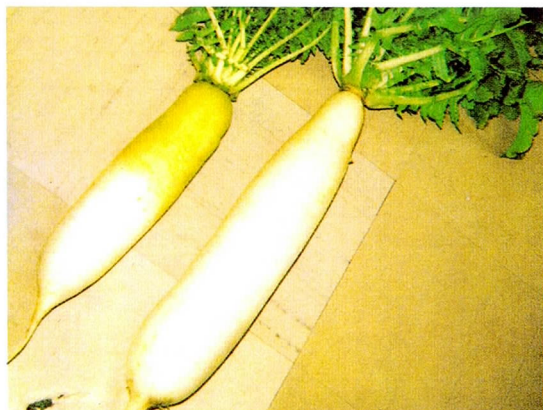


写真1 三浦ダイコン(右) (青首ダイコンとの比較)

(需要量)が大幅に増えていきました。それに対応する形で、当産地でも「青首ダイコン」の栽培面積が年々増加し、逆に特産の「三浦ダイコン」の栽培面積は大幅に減少しました。このような経過で、長い年月をかけて農家自らが育種し、収入の中心になっていた「三浦ダイコン」はわずか5年ほどで希少価値のある作物となってしまいました。いまでは、若い消費者から「三浦の青首ダイコン」を「三浦ダイコン」と呼ばれるようになっていきます。

しかし、この青首ダイコンが作られるようになってからダイコンの栽培面積が増え、三浦市での農業の収入源の中でも安定した収入につながる作物としての地位をさらに強固にしたといえます(表2)。

2 青首ダイコンの品種検討経過と秀太郎

三浦ダイコン中心のころは他に競合する大型産地も少なく、市場の占有率が80%を超える時期もありました。3月に入って、抽台したもので売れ、作れば売れる時代が長く続き、そのころは農家も作ることさえ考えていればよかったという時代であったように思います。しかし、青首ダイコンの時代になり、品種による品質差が認識され始め、競合産地が増えていきました。市場からは、売りやすくするため、食用部分でない葉の状態、根の揃い、根長など、品質に対する厳しい要求が出され、見栄えがするものを高く評価する傾向が強くなりました。近年では、工業製品の規格と言えるような状態まで要求されるようになり、栽培

に向く品種を選ぶ重要性は一段と高まっています。これによって、実際の生産出荷の現場では、青首ダイコンになって収穫時の取り扱いが三浦ダイコンよりも改善されたものの、栽培管理面では、その品種選定も含めて三浦ダイコン以上に神経を使わなければならなくなったと感じています。

このような背景の中で、青首ダイコンを作り始めたころは、

- ①一代交配(F1)なので揃いが良い。
- ②1.0~1.5kgで出荷できるので作業が楽。
- ③密植ができ、収量が増える。

の良い面が確認され切り替わっていきました。しかしその後、各種苗会社から次々と新しい品種が持ち込まれ、さらに、揃い、形状、見栄えのする品種を探すための品種検討が始まったのも当然の流れといえるでしょう。

昭和60年代に入ると、暖冬などの影響により、それ以前は3月中旬まで問題にならなかった抽台が2年続けて早くなり、出荷が間に合わず、抽台したものが市場に出たことから品質の点で不評を買い、翌年、露地栽培が可能と思われる品種を播種時期直前に急ぎ取り入れ、対応したこともありました。この時は品種特性を十分に把握していない中での実用化を迫られたため、収穫されるまでは不安な時間を過ごした記憶があります。

- その後も毎年、平均して20品種前後を検討し、
- ①年内収穫
 - ②1~2月収穫
 - ③3月収穫

に分類し、それぞれに適した品種を探し、使い分けるようになりました。また、同じ三浦市の中で

表2 三浦市の主要農作物の移り変わり

作目	年	昭45	50	54	55	57	59	61	63	平2	平4	平6
ダイコン	面積(ha)	504	546	543	552	572	634	731	755	760	769	781
	収量(t)	36,458	56,200	51,000	56,800	58,000	64,400	80,400	76,300	76,700	84,100	82,800
キャベツ	面積(ha)	710	675	714	771	803	757	694	723	728	719	713
	収量(t)	24,955	30,600	32,100	35,400	38,600	40,500	36,200	39,000	38,000	37,900	37,700
スイカ	面積(ha)	728	768	737	709	639	502	578	543	430	450	418
	収量(t)	20,269	28,000	30,100	18,200	21,400	24,300	23,600	18,800	14,200	14,600	14,000
カボチャ	面積(ha)					140	186	201	215	262	209	196
	収量(t)					3,950	4,210	4,120	4,840	5,720	4,390	4,320
メロン	面積(ha)						95	54	59	95	80	80
	収量(t)						1,500	935	1,060	1,650	1,260	1,230

↑
青首ダイコン
の栽培始まる

5年間で三浦ダイコンから
青首ダイコンに変わり、面
積は急激に増え始める

(農業統計)

も、地域の微気象で見ると北部・中部・南部と分類して、地域全体で均一の品質を維持することを念頭に品種選定に取り組んでいます。

三浦市は温暖な気候に恵まれているだけでなく、前述した50%という高い専業比率も手伝って、品種の選定だけでなく、収益性を上げるため、積極的に栽培技術習得に農家も高い関心を持って取り組み、実践の経験から密植栽培を実現しています。このため、農家個々が試作している品種を集めると農協で品種検討をするのと同じくらいの数になります。

そんな時期の3月に、ある農家が試作した品種が結果が良いとの話を聞き、早速、農家に行き見せてもらいました。農家の話では、少し日当たりの悪い条件のあまり良くない圃場で試作し、当時3月収穫していた品種ほどではないが、抽台が遅く、その品種より揃いが良いとのことでした。

私が見た目としては、葉は小さく、根も揃いは良いものの少し短め、首の色はやや薄いポヤーとした緑色で、このダイコンがいいのか？と思ったのが「秀太郎」を初めて見た私の印象でした。

3 「秀太郎」の試作検討と位置づけ

前述したように、私個人の「秀太郎」に対する印象はあまり良いものではありませんでしたが、そのダイコンを見た数軒の農家から試作希望と種子手配の要望が出され、その秋に農家の試作と並行して農協での検討品種に加えました。

その成績は表3のとおりです。

1) 生育状況および成績の概要 (写真2, 3)

- ・葉は発芽直後から開張型で地面と平行に広がり、色濃く、短い。



写真2 ダイコンの品種検討会（研究会にて試作）



写真3 試作検討の時の「秀太郎」（RA-115）
（首の色が薄い）

- ・12月ころから抽根するが、葉が開張性であるため抽根部を覆い、この時点では抽根部の色は白っぽく見える。
- ・1月になると、少し葉が開き、芯の葉わずかに立ってくる。
- ・収穫時の印象は首の緑色は淡いが、新鮮さを感じさせるものになる。この判断や表現は非常に難しく、ただ緑が濃ければ良いと言うものではない。葉は小さい。

2) 「秀太郎」導入と位置づけ

産地としては、抽台が遅い有利性を生かして導入したいと考え、2月以前の冬ダイコンの品種では抽台する恐れがあり、3月以降の春ダイコンの品種では形状や見栄えの点で出荷が難しい時期＝2月中旬～3月上旬の収穫を目的とした三浦春ダイコンの品種として位置づけ、平成7年

表3 平成5年度の収穫調査 (30本調査)

品 種	全重 (g)	出荷重 (g)	葉長 (cm)	根長 (cm)	根 径 (mm)			ス入り
					首	中	尻	
秀太郎 (RA-115)	1,462.6	1,395.3	34.1	33.9	71.4	74.8	53.2	なし
5号 (T社)	1,482.3	1,401.3	42.3	34.7	72.1	75.1	52.9	なし
青 (M社)	1,602.6	1,477.6	44.8	33.9	71.0	79.2	59.4	なし
2号 (S社)	1,513.0	1,429.3	43.8	35.7	68.4	73.3	54.2	なし

注) 播種：平成5年9月27日、畦幅48cm×株間24cm
 収穫調査：平成6年1月31日、秀太郎＝RA115(試作系統番号)
 全重：1株すべての重さ 出荷重：葉を15cmの長さに切り、出荷の荷姿にした重さ
 根径：首…葉のつけ根から7～8cmくらい下部の太さ
 中…根の中心部の太さ
 尻…出荷荷姿にして、先端から7～8cmくらい上部の太さ

度の栽培から導入し、「秀太郎」の三浦での定位置が決まりました。三浦市においては、この2月中旬～3月上旬という収穫時期は非常に難しい時期で、この時期に品質を満たしてピッタリ適合する品種はわずかしかなりありません。

3) 課題と対策

「秀太郎」の試作例をとると、平成5年度では短かめであった根部も、平成6年度、平成7年度の試作では細く長い傾向になり、平成6年度では、3月15日を過ぎても抽台はほとんど問題にならなかったが、平成7年度では3月10日過ぎから始まったことが確認されています。これは、平成6年まで約10年間続いた暖冬から、平成7年は平年並みの寒さになったことなどが原因と考えられます(写真4、表4)。ただし、この事実は「秀太郎」に限ったことではなく、他の品種も同様に気象の影響を受けています。

こうなると、過去10年間の資料だけでは対応できない年が予想され、再度、播種時期、畦幅、株間などの基本的なことを検討し、予定した期間に品質の安定したものを供給しなければならないと考えています(表5)。



写真4 平成6年度の栽培から
左・2号(S社)、中・3号(M社)、右・秀太郎
(秀太郎は首の色薄く、形は良いが細く長い)

成績 (2月2日収穫)

品 種	全長 (cm)	葉長 (cm)	根長 (cm)	全重 (g)	出荷重 (g)
秀太郎	83.5	42.0	41.5	1,580.0	1,490.0
2 号	91.5	50.0	41.5	1,790.0	1,720.0
3 号	84.7	45.7	39.0	1,813.3	1,683.3

表4 平成7年度の収穫調査(調査:平成8年2月21日)
成績①

品 種	全長 (cm)	葉長 (cm)	根長 (cm)	出荷重 (g)	抽苔 (cm)
秀太郎	73.3	30.9	42.4	1,709	0.0*
青 (M社)	—	—	40.0	1,715	5.3
3号(M社)	73.0	33.8	39.2	1,865	0.8

注) 播種:平成7年9月25日、畦幅48cm×株間24cm
*秀太郎も花芽はある

成績②

品 種	全長 (cm)	葉長 (cm)	根長 (cm)	出荷重 (g)	抽苔 (cm)
秀太郎	66.0	23.9	42.1	1,886	8.0
O (T社)	55.8	20.6	35.2	1,333	0.2

注) 播種:平成7年10月6日、畦幅45cm×株間21cm
実際の抽苔の長さは秀太郎で10~13cmくらい、Oで5mmくらいであった。

表5 平成7年度冬野菜と8年産春野菜の
計算グループについて

◎その他の品種は種子の注文の時と出荷予約の時に教えて下さい。
出荷の時に現物を見て相談。 特産・三浦野菜生産販売連合

区 分	計算グループ	呼 称	品種名	出荷時期の目安
冬大根(白)	1	三浦大根		12月24~25日中心
冬大根(青首)	1	三浦青首大根		11月15日~2月 1月~2月10日 1月~2月20日 1月15日~2月
春大根	1	三浦春大根	秀太郎	2月25日~3月10日

おわりに

三浦はやはりダイコンの産地です。これは将来も大きく変わることはないと思います。しかし、単なるダイコンの産地というのではなく、「三浦ダイコン」のように、三浦でなければと言われるような特色のある作物を育て、農業に対して自負の持てる産地を目指していきたいと思っています。

価格破壊、輸入農産物、後継者など、日本の農業に対する不安は数多く指摘されています。生き残りをかけ真剣に！などと肩ひじを張って考えるのではなく、それぞれの産地が無理なく、物まねでない特色を生かして取り組む農業が将来の日本の食糧を供給する場として継続される農業になるものと思っています。